資料２－１

イー歯トーブ８０２０プラン中間評価（素案）

中間評価の目的と方法

1　中間評価の目的

イー歯トーブ８０２０プランは、平成29年度を目途に中間評価、平成34年度に最終評価を行い、同プランを推進するための目標項目と取組を評価して、その後の口腔の健康づくり施策に反映することとしています。

このため、同プランの中間評価については、目標項目の進捗状況や取組状況を評価するほか、目標項目を改善するための課題を明らかにし、プラン後期の施策に反映することを目的としています。

2　中間評価の方法

(1)　目標項目の評価について

イー歯トーブ８０２０プランの策定時に設定された18の目標項目について、基準値（策定時の現状値）から目標値に向けた中間実績値（直近値）の進捗状況を下記のとおり到達度として算出し、その値を中間評価の基準に当てはめて４段階（Ａ～Ｄ）で評価しました。また、中間評価の判定基準は、最終評価の判定基準を踏まえて下記のとおり設定しました。

到達度の算定方法
①　基準値よりも実績値を上げる目標項目の場合 計算式　（中間実績値－基準値）／（目標値－基準値）×100％
②　基準値よりも実績値を下げる目標項目の場合 計算式　（基準値－中間実績値）／（基準値－目標値）×100％

評価の判定基準				
評価区分	到達度（中間評価）		到達度（最終評価）	
A	50％以上	順調に改善	100％以上	目標達成
B	25％以上 50％未満	改善	50％以上 100％未満	目標未達成 （改善）
C	０％超え 25％未満	やや改善	０％超え 50％未満	目標未達成 （やや改善）
D	０％以下	変化なし・悪化	０％以下	目標未達成 （変化なし・悪化）

(2)　取組状況の評価について

口腔の健康づくりについて県の取組を整理するとともに、市町村及び関係機関を対象に取組状況の調査を実施し、とりまとめて評価しました。

中間評価の結果

1　目標項目の個別評価

(1) ライフステージに応じた口腔の健康づくり

【乳幼児期①】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「3歳児でむし歯がある者の割合の減少」

指標「3歳児むし歯有病者率(%)」

目標値	基準値 (平成24年度3歳児歯科健康診査結果集計)	中間実績値 (平成27年度3歳児歯科健康診査結果集計)
14%	26.5%	22.4%（速報値）

到達度	32.8%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(22.4%)は基準値(26.5%)から減少し、目標値(14%)に対して3割以上改善しています。

〔今後の課題〕

全国のむし歯有病者率は、平成24年度の19.1%から平成27年度の17.0%に低下しています。その結果、本県のむし歯有病者率は、全国値との差が平成24年度の7.4ポイントから平成27年度の5.4ポイントまで縮小しています。一方、都道府県の中では全国ワースト14であり、乳幼児期のむし歯の予防をさらに推進することが必要です。

【乳幼児期②】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「3歳児でむし歯のある者の割合が30%以上である市町村の減少」

指標「3歳児むし歯有病者率が30%以上の市町村数」

目標値	基準値 (平成21、23、24年度3歳児歯科健康診査結果集計3年分集計)	中間実績値 (平成24、25、26年度3歳児歯科健康診査結果集計3年分集計)
3市町村	21市町村	16市町村

到達度	27.8%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(16 市町村)は基準値(21 市町村)から減少し、目標値(3市町村)に対して3割弱改善しています。

〔今後の課題〕

むし歯有病者率が30%以上の16市町村のうち、12市町村は30%台前半ですが、30%台後半の2町と40%以上の2市については目標としている30%から数値が離れているため、乳幼児期のむし歯の予防をさらに推進することが必要です。

【乳幼児期③】

目標項目「３歳児で不正咬合がある者の割合の減少」

指標「３歳児不正咬合有所見者率(%)」

目標値	基準値 (平成24年度３歳児歯科健康診査結果集計)	中間実績値 (平成27年度３歳児歯科健康診査結果集計)
7.6%	9.4%	11.7%（速報値）

到達度	−127.8%	評価	D

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(11.7%)は基準値(9.4%)から増加し、悪化しています。目標値(7.6%)に対して約４ポイント乖離した状況です。

〔今後の課題〕

乳幼児の口腔習癖（吸指癖、舌癖、口唇癖、口呼吸など）による不正咬合を予防するため、乳幼児歯科保健活動（歯科健康診査、歯科保健指導、歯科相談、歯科健康教育など）において、保護者に口腔習癖に関する適切な指導を行うことが必要です。

【学齢期①】　※健康いわて21プラン(第２次)との共通指標

目標項目「12歳児でむし歯がある者の割合の減少」

指標「12歳児永久歯むし歯有病者率(%)」

目標値	基準値 (平成24年度公立学校定期健康診断結果集計)	中間実績値 (平成28年度公立学校定期健康診断結果集計)
28%	38.7%	33.0%

到達度	53.3%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(33.0%)は基準値(38.7%)から減少し、目標値(28%)に対して５割以上改善しています。

〔今後の課題〕

平成28年度の12歳児のむし歯有病状況について、全国値と比較が可能な「(永久歯＋乳歯）むし歯有病者率（%)」と「一人平均永久歯むし歯数（歯)」の指標でみると、全国の35.5%と0.84歯に比較して本県は40.3%と0.97歯と悪い状況のため、学齢期のむし歯の予防をさらに推進することが必要です。

【学齢期②】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「12歳児の一人平均むし歯数が1歯以上である市町村の減少」

指標「12歳児一人平均永久歯むし歯数が1歯以上の市町村数」

目標値	基準値	中間実績値
	(平成21、22、24年度公立学校定期健康診断結果3年分集計)	(平成26、27、28年度公立学校定期健康診断結果3年分集計)
6市町村	22市町村	19市町村

到達度	18.8%	評価	C

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(19市町村)は基準値(22市町村)から減少し、目標値(6市町村)に対して2割弱改善しています。

〔今後の課題〕

一人平均むし歯数が1歯以上の19市町村のうち、1歯台前半(1.0歯以上1.5歯未満)は9市町ですが、1歯台後半(1.5歯以上2.0歯未満)の7市町村と2歯以上の3市町村については目標としている1歯から数値が離れているため、学齢期のむし歯の予防をさらに推進することが必要です。

【学齢期③】

目標項目「中学生・高校生で歯肉に炎症所見がある者の割合の減少」

指標「中学生・高校生の歯肉炎有病者(GO所有者＋G所有者)率(%)」

目標値	基準値	中間実績値
	(平成24年度公立学校定期健康診断結果集計)	(平成28年度公立学校定期健康診断結果集計)
20%	23.0%	21.4%

到達度	53.3%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(21.4%)は基準値(23.0%)から減少し、目標値(20%)に対して5割以上改善しています。

〔今後の課題〕

歯肉炎有病者(GO所有者＋G所有者)率は毎年少しずつ改善していることから、現在の状況が後退しないように、引き続き子どもの歯肉炎予防の取組を進める必要があります。また高校卒業後には歯科健康診査(検診)を受ける機会が少なくなることから、かかりつけ歯科医をもつことの重要性を啓発していくことが必要です。

【成人期①】

目標項目「成人期で未処置のむし歯がある者の割合の減少」

指標「20～50歳代の未処置むし歯有病者率（無歯顎者を除く）（%）」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
32%	40.0%	36.6%

到達度	42.5%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(36.6%)は基準値(40.0%)から減少し、目標値(32%)に対して4割以上改善しています。

〔今後の課題〕

むし歯の予防と早期治療によるむし歯の重症化防止を進めることが必要です。特に、成人期ではむし歯があっても歯科治療を受けない者が多いことから、市町村、事業所等での歯科健康診査(検診)やかかりつけ歯科医での定期的な歯科健康診査(検診)を推進するとともに、むし歯の早期治療につなげる取組が重要です。

【成人期②】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「20・30歳代で歯肉に炎症所見がある者の割合の減少」

指標「20・30歳代で歯肉に炎症所見（BOP(+):Bleeding on probing）を有する者の割合（調査対象歯がない者等を除く）（%）」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
25%	30.8%	37.5%

到達度	−115.5%	評価	D

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(37.5%)は基準値(30.8%)から増加し、基準値よりも悪化しています。目標値(25%)に対して10ポイント以上乖離した状況です。

〈参考〉 平成28年度県民生活習慣実態調査では、歯周病の診査方法を変更しています。

〔今後の課題〕

高校卒業後から40歳未満の年齢では歯科健康診査(検診)を受ける機会が少なく、またかかりつけ歯科医をもっている者が5割未満（他の年齢層は8割程度）と低いことから、歯周病の予防とかかりつけ歯科医をもつことの重要性を啓発していくことが必要です。

【成人期③】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「40・50歳代で進行した歯周炎がある者の割合の減少」

指標「40・50歳代の重度歯周炎有病者率（調査対象歯がない者等を除く）(%)」

目標値	基準値	中間実績値
	(平成24年度県民生活習慣実態調査)	(平成28年度県民生活習慣実態調査)
44%	55.4%	42.5%

到達度	113.2%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(42.5%)は基準値(55.4%)から大きく減少し、目標値(44%)を上回るほど改善しています。

〔今後の課題〕

国の調査では平成23年から平成28年にかけて、すべての年齢層で進行した歯周炎のある者の割合が増加していることから、本県においては現在の状況が後退しないように、引き続き歯周病の予防と早期発見・早期治療の取組を進めることが必要です。

【成人期④】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「30・40歳代で喪失歯がある者の割合の減少」

指標「30・40歳代の喪失歯所有者率(%)」

目標値	基準値	中間実績値
	(平成24年度県民生活習慣実態調査)	(平成28年度県民生活習慣実態調査)
25%	44.9%	36.2%

到達度	43.7%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(36.2%)は基準値(44.9%)から減少し、目標値(25%)に対して4割以上改善しています。

〔今後の課題〕

高校卒業後から40歳未満の年齢では歯科健康診査(検診)を受ける機会が少なく、またかかりつけ歯科医をもっている者が5割未満（他の年齢層は8割程度）と低いことから、むし歯及び歯周病の予防並びにかかりつけ歯科医での早期発見・早期治療を推進し、歯の喪失を防止することが必要です。

【高齢期①】

目標項目「60歳代で未処置のむし歯がある者の割合の減少」

指標「60歳代の未処置むし歯有病者率（無歯顎者を除く）（%）」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
33%	41.1%	54.3%

到達度	−163.0%	評価	D

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(54.3%)は基準値(41.1%)から増加し、悪化しています。目標値(33%)に対して20ポイント以上乖離した状況です。

〔今後の課題〕

歯の根面を含めたむし歯の予防と早期治療による重症化防止を進めることが必要です。特に、市町村等での歯科健康診査(検診)やかかりつけ歯科医での定期的な歯科健康診査(検診)を推進するとともに、むし歯の早期治療につなげる取組が重要です。

【高齢期②】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「60歳代で進行した歯周炎がある者の割合の減少」

指標「60歳代の重度歯周炎有病者率（調査対象歯がない者等を除く）（%）」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
53%	64.2%	72.5%

到達度	−74.1%	評価	D

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(72.5%)は基準値(64.2%)から増加し、悪化しています。目標値(53%)に対しては約20ポイント乖離した状況です。

〔今後の課題〕

歯周病の予防と早期発見・早期治療による取組を進めることが必要です。特に、市町村等での歯科健康診査(検診)やかかりつけ歯科医での定期的な歯科健康診査(検診)を推進するとともに、かかりつけ歯科医での歯周病の早期治療と継続的管理につなげる取組が重要です。

【高齢期③】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「60歳で24歯以上自分の歯を有する者の割合の増加」

指標「6024達成者率(60歳(55～64歳)で24歯以上現在歯数を有する者の割合)(%)」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
60%	46.3%	65.6%

到達度	140.9%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(65.6%)は基準値(46.3%)から大きく増加し、目標値(60%)を上回るほど改善しています。

〔今後の課題〕

国では6024達成者率70%を目標値に掲げて取組を進めていることから、本県においても6024達成者率のさらなる改善のため、歯の喪失防止に係る取組を推進することが必要です。

【高齢期④】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「80歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合の増加」

指標「8020達成者率(80歳(75～84歳)で20歯以上現在歯数を有する者の割合)(%)」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
40%	21.3%	48.3%

到達度	144.4%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(48.3%)は基準値(21.3%)から大幅に増加し、目標値(40%)を上回るほど改善しています。

〔今後の課題〕

国では8020達成者率50%を目標値に掲げて取組を進めていることから、本県においても8020達成者率のさらなる改善のため、歯の喪失防止に係る取組を推進することが必要です。

【高齢期⑤】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「60歳代における咀嚼良好者の割合の増加」

指標「60歳代で食べ物を何でも噛んで食べられる者の割合(%)」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
80%	71.6%	72.4%

到達度	9.5%	評価	C

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(72.4%)は基準値(71.6%)から僅かしか改善しておらず、目標値(80%)に対して約1割改善しています。

〔今後の課題〕

残っている歯が咀嚼機能を十分に発揮できるように、むし歯や歯周炎等の予防と早期発見・早期治療による重症化防止の取組を進めることが必要です。また、咀嚼については幼児期から「ゆっくりよく噛む」ことを促すなど、行動面からも咀嚼機能の維持・向上につながる取組を進めることが重要です。

【成人期・高齢期】　※健康いわて21プラン(第2次)との共通指標

目標項目「成人期及び高齢期で定期的に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合の増加」

指標「20歳以上で過去1年間に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合(%)」

目標値	基準値 (平成24年度県民生活習慣実態調査)	中間実績値 (平成28年度県民生活習慣実態調査)
50%	25.8%	41.3%

到達度	64.0%	評価	A

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(41.3%)は基準値(25.8%)から約15ポイント増加しており、目標値(50%)に対して6割以上改善しています。

〈参考〉 基準値(25.8%)を平成24年の性・人口構成に補正した値は25.4%、また中間実績値(41.3%)を平成28年の性・人口構成に補正した値は38.8%(平成24年の性・人口構成に補正した値は38.4%)と約13ポイント増加しており、大きく改善しています。

〔今後の課題〕

40歳以上の歯科健康診査(検診)の受診率は40～50%ですが、20、30歳代の受診率は20%程度と低くなっていることから、この年齢層の歯科健康診査(検診)を促していくことが必要です。

(2) 障がい児・者及び要介護者における口腔の健康づくり

【障がい児・者】

目標項目「障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加」

指標「障害者支援施設及び障害児入所施設において入所者が定期的に年1回以上歯科健康診査(検診)を受ける機会をもっている施設の割合(%)」

目標値	基準値	中間実績値
	(岩手県健康国保課「平成25年障がい児・者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」)	(岩手県健康国保課「平成29年障がい児・者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」)
90%	62.8%	72.2%

到達度	34.6%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(72.2%)は基準値(62.8%)から増加し、目標値(90%)に対して3割以上改善しています。

〔今後の課題〕

多くの障害者支援施設及び障害児入所施設において歯科健康診査(検診)や歯科保健指導等の活動が実施されるように各施設での取組を促していくことが必要です。

また、通所施設や在宅での取組を進めること、障がい児・者の口腔内の実態を把握することも重要です。

【要介護者】

目標項目「介護老人福祉施設、介護老人保健施設及び地域密着型介護老人福祉施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加」

指標「介護老人福祉施設、介護老人保健施設及び地域密着型介護老人福祉施設において入所者が定期的に年1回以上歯科健康診査(検診)を受ける機会をもっている施設の割合」

目標値	基準値	中間実績値
	(岩手県健康国保課「平成25年高齢者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」)	(岩手県健康国保課「平成29年高齢者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」)
50%	27.0%	37.4%

到達度	45.2%	評価	B

〔評価に係るコメント〕

中間実績値(37.4%)は基準値(27.0%)から増加し、目標値(50%)に対して4割以上改善しています。

〔今後の課題〕

介護老人福祉施設、介護老人保健施設及び地域密着型介護老人福祉施設において、定期的に歯科健康診査(検診)を実施している施設は増加しているものの、半数に満たないことから各施設での取組を促していくことが必要です。

また、通所施設や在宅での取組を進めること、要介護者の口腔衛生、口腔機能等の実態について把握することも重要です。

2　目標項目の総括評価

(1) 目標項目に対応した指標の進捗状況と評価

基準値から目標値に向けた中間実績値の到達度			項目数
A	50%以上	順調に改善	6
B	25%以上 50%未満	改善	6
C	0%超え 25%未満	やや改善	2
D	0%以下	変化なし・悪化	4
合計			18

○　乳幼児期に関する目標項目の中で「3歳児でむし歯がある者の割合」及び「3歳児でむし歯のある者の割合が30%以上の市町村数」は減少し、目標値に対して改善しています。一方、「3歳児で不正咬合がある者の割合」は増加し、基準値よりも悪化しています。

○　学齢期に関する目標項目の「12歳児でむし歯がある者の割合」、「12歳児の一人平均むし歯数が1歯以上の市町村数」及び「中学生・高校生で歯肉に炎症所見がある者の割合」は減少し、目標値に対して改善しています。

○　成人期に関する目標項目の中で「成人期で未処置のむし歯がある者の割合」、「40・50歳代で進行した歯周炎がある者の割合」及び「30・40歳代で喪失歯がある者の割合」は減少し、目標値に対して改善しています。特に「40・50歳代で進行した歯周炎がある者の割合」は目標値を上回るほど改善しています。一方、「20・30歳代で歯肉に炎症所見がある者の割合」は増加し、基準値よりも悪化しています。

○　高齢期に関する目標項目の中で「60歳で24歯以上自分の歯を有する者の割合」及び「80歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合」は増加し、目標値を上回るほど改善しています。一方、「60歳代における咀嚼良好者の割合」は、僅かに増加しているものの改善度が低く、また「60歳代で未処置のむし歯がある者の割合」及び「60歳代で進行した歯周炎がある者の割合」は増加し、基準値よりも悪化しています。

○　成人期及び高齢期の共通目標項目である「成人期及び高齢期で定期的に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合」は増加し、目標値に対して改善しています。

○　障がい児・者の目標項目である「障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科健康診査実施率」と要介護者の目標項目である「介護老人福祉施設、介護老人保健施設及び地域密着型介護老人福祉施設での定期的な歯科健康診査実施率」は増加し、目標値に対して改善しています。

(2) 今後の課題

○　乳幼児期のむし歯の目標項目は改善していますが、目標値を達成するためには乳幼児期のむし歯の予防をさらに推進することが必要です。特に、乳幼児のむし歯が多い地域での取組が重要です。また、不正咬合に関する目標項目は基準値よりも悪化しているため、乳幼児歯科保健活動において、保護者に口腔習癖に関する適切な指導を行うことが必要です。

○　学齢期に関するすべての目標項目は改善していますが、目標値を達成するためには児童・生徒のむし歯と歯肉炎の予防をさらに推進することが必要です。特に児童・生徒のむし歯が多い地域での取組が重要です。

○　成人期に関する目標項目の中で、若年者の歯肉炎に関する目標項目が基準値よりも悪化しているため、若年者に対して歯周病の予防とかかりつけ歯科医をもつことの重要性を啓発していくことが必要です。また、改善している目標項目についても、目標値を達成するためには、むし歯及び歯周病の予防並びに早期発見・早期治療による重症化の防止を推進していくことが必要です。

○　高齢期に関する目標項目の中で、現在歯の保有状況に関する目標項目は改善していますが、未処置のむし歯や進行した歯周病に関する目標項目は基準値よりも悪化しているため、むし歯及び歯周病の予防並びに早期発見・早期治療による重症化の防止を推進していくことが必要です。また、咀嚼状態に関する目標項目の改善度が低いことから、歯を健康な状態で維持して十分に咀嚼機能を発揮できるよう、むし歯と歯周病の対策を推進することが必要です。

○　成人期・高齢期の共通目標項目である歯科健康診査(検診)受診率は改善していますが、20、30歳代の受診率が低いため、この年齢層の歯科健康診査(検診)を促していくことが必要です。

○　障がい児・者及び要介護者の入所施設における歯科健康診査(検診)の実施率は改善していますが、多くの施設において実施されるように取組を促していくことが必要です。また、通所施設や在宅での取組を進めること、障がい児・者及び要介護者の口腔衛生、口腔機能等の実態について把握することも重要です。

目標項目に係る中間実績値及び到達度一覧

区分	目標項目名	基準値(H24)	中間評価		目標値(H34)	出典
			中間実績値(H28)	到達度		
乳幼児期	3 歳児でむし歯がある者の割合の減少	26.5%	22.4%(H27 速報値)	32.8%	14%	3歳児歯科健康診査結果集計
	3 歳児でむし歯のある者の割合が 30%以上である市町村の減少	21 市町村(H21, 23, 24 の 3 年分集計)	16 市町村(H24/25/26 の 3 年分集計)	27.8%	3 市町村	
	3 歳児で不正咬合がある者の割合の減少	9.4%	11.7%(H27 速報値)	-127.8%	7.6%	
学齢期	12 歳児で永久歯のむし歯がある者の割合の減少	38.7%	33.0%	53.3%	28%	公立学校定期健康診断結果集計
	12 歳児の一人平均永久歯むし歯数が 1 歯以上である市町村の減少	22 市町村(H21, 22, 24 の 3 年分集計)	19 市町村(H26/27/28 の 3 年分集計)	18.8%	6 市町村	
	中学生・高校生で歯肉に炎症所見がある者の割合の減少	23.0%	21.4%	53.3%	20%	
成人期(妊産婦である期間を含む)	成人期で未処置のむし歯がある者の割合の減少	40.0%	36.6%	42.5%	32%	岩手県「県民生活習慣実態調査」
	20・30 歳代で歯肉に炎症所見がある者の割合の減少	30.8%	37.5%	-115.5%	25%	
	40・50 歳代で進行した歯周炎がある者の割合の減少	55.4%	42.5%	113.2%	44%	
	30・40 歳代で喪失歯がある者の割合の減少	44.9%	36.2%	43.7%	25%	
	成人期及び高齢期で定期的に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合の増加	25.8%	41.3%	64.0%	50%	
高齢期	60 歳代で未処置のむし歯がある者の割合の減少	41.1%	54.3%	-163.0%	33%	
	60 歳代で進行した歯周炎がある者の割合の減少	64.2%	72.5%	-74.1%	53%	
	60 歳で 24 歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	46.3%	65.6%	140.9%	60%	
	80 歳で 20 歯以上自分の歯を有する者の割合の増加	21.3%	48.3%	144.4%	40%	
	60 歳代における咀嚼良好者の割合の増加	71.6%	72.4%	9.5%	80%	
	成人期及び高齢期で定期的に歯科健康診査(検診)を受けている者の割合の増加【再掲】	25.8%	41.3%	64.0%	50%	
障がい児・者	障害者支援施設及び障害児入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	62.8%(H25)	72.2%(H29)	34.6%	90%	岩手県健康国保課「障がい児・者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」
要介護者	介護老人福祉施設、介護老人保健施設及び地域密着型介護老人福祉施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	27.0%(H25)	37.4%(H29)	45.2%	50%	岩手県健康国保課「高齢者入所施設の歯科保健状況に関するアンケート調査」

〈到達度の算定方法〉 基準値よりも実績値を上げる目標項目:(中間実績値－基準値)/(目標値－基準値) ×100%
基準値よりも実績値を下げる目標項目:(基準値－中間実績値)/(基準値－目標値) ×100%